

やまがた

元氣

農の風

NO.31

山形県舟形町

株式会社ムラサキ農産

やくわ よしのり いずみ
八鍬 良則さん・和泉さん変わらぬ品質 みずみずしい美味しさ
「もがみねぎ」を中心に米、トマトを栽培

舟形町



経営のきっかけ・こだわり・思いをお聞かせください。

山形大学工学部を卒業後、民間企業に就職しました。舟形町の実家は水稻主体の専業農家で「いつかは農業をやりたい」と漠然と考えていましたが、27歳の時に「始めるなら今」と決意し、平成19年に地元に戻り夫婦で就農しました。

当初は、ねぎ30aからスタートし2年目に60aに拡大しましたが、ねぎは湿害に弱いので、土壌の通気性や排水性を良くする対策に苦心しました。平成25年には父母と共に法人化し、当町紫山地区の名を取って（株）ムラサキ農産を設立し、現在は、水稻14ha、ねぎ2ha、トマトハウス6棟と、ラズベリー、マッシュルーム等の複合経営を行い、ラジコンヘリの防除作業を自ら行い、地域の担い手として、紫山・向山地区の防除も請け負っています。

今年は猛暑で農作業が大変でしたが、どんな環境でも美味しく出来るよう、変わらぬ品質をお届けすることを大切にしています。



八鍬良則さん、和泉さんご夫妻



特別栽培農産物認証のトマト

収穫を迎える夏秋ねぎ

農業の魅力について
お聞かせください。

和泉さんは、JA女性部で活躍されるほか、小学校で味噌作りの先生をするなど、食育の力で地域の輪を広げています。



自家栽培のラズベリーやカシスを使ったジャム

農業は自然環境に左右され、マニュアルどおりにいかないことばかり。そこをどう攻略していくかを考え、対策をたて、工夫したことが、成果に結びついた時に面白さや楽しみを感じます。

夫婦で就農して15年経ちますが、難しい局面になった時ほど、「ここが腕の見せ所」と思って頑張っています。お客さんからの「美味しい！」という言葉が何より嬉しいですね。

今後の経営、目標や夢、
将来展望をお聞かせください。

水稻面積は委託された農地も含めて14haですが枚数が多いため、効率的に農作業を回していくことを心がけています。作業時間の短縮は機械化でカバーして、まずは、任された農地を荒らさないよう、しっかり地域を守っていきたいです。同じ面積でも枚数が減れば、その分効率化が進むので、これから基盤整備が進み、スマート農業が出来る環境が整うことを期待しています。

良則さんは、学校給食に食材提供（ねぎ、トマト）するほか、最上広域野菜振興協議会ねぎ部会長として、「もがみねぎ」の産地振興に尽力されています。



つや姫のほ場



東北農政局 山形県拠点 地方参事官室

TEL:023-622-7231/FAX:023-622-7256

